

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 22日

事業所名 こどもプラス宜野湾教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	2	1	・広いと思う	・利用者に対して教室の広さが足りない ・人数や活動内容によって狭く感じることがある ・ゆっくりする部屋が必要 ・パーティションを準備し、静かに活動する、休む、各々のスペースを作る
	2	職員の配置数は適切である	3	1	1	・児童によって加配職員をつけている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2			・トイレの改善が必要 (トイレ入室時の段差検討)
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5			・全職員の参画を促し、毎時、振り返りを行っている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			・保護者同士が繋がりを持っての行事を企画している	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1		・毎年公表している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	1	3		・今後検討していく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			・月に1回以上は行っている	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		・各々の意見を取り入れている	・今月は〇〇を意識した活動を行う・等全体活動の目標設定を行い、職員間で共有する
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			・その都度話合っている ・前回までの活動内容をチェックし利用児に合わせたプログラムを考えて	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	2		・長期休業時は普段のプログラムと違った活動を取り入れている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1		・出来ない時には連絡ノートに記載し、情報共有を図る	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1		・出来ない時は翌日に話し合っている ・気になる点、気付いた点をノートにメモし、ミーティング時に情報	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5				・児童が来所する前に前回の記録に目を通すことを習慣づける
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5			・定期でなくても必要時はモニタリングを行っている	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5					

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	4	1			・日々寄り添ってその児に対応している職員が参 加できたら・・と考える
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連 絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡)を適切に行っている	4	1		・各々の学校に よって対応は異な るが、必要時は 行っている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている		5			・今までには対象児はいないが、今後あれば整 える
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている		5			・今までには対象児はいないが、今後あれば努 める
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行 する場合、それまでの支援内容等の情報を 提供する等している	1	4			・今後、サポートノートえいぶるの活用を図る
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研 修を受けている	4	1		・研修の機会は 日々設けている	・研修は受けている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	4	1		・交流になるよう工 夫した活動を考え ている	・定期的な(月1・2回程度)地域交流を入れた い。事前に他施設の職員と活動内容等の打ち合 わせも行うよう努める
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	1	2	2	・ある際には参加し ている	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	3	1	1	・その都度共有して いる ・送迎時、保護者と 会えない事があ る。その際は必要 に応じて電話連絡 をいれる ・その日あった出来 事で頑張っていた ことや、良い所を伝 える ・日々の活動の様 子を写真に撮って 個人ノートへ張り保	・個人ノートを忘れてしまう児童が多くなってい る。都度、忘れずに持ってきてもらう為の策を 色々試してみる
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	1	4		・ペアトレ等の情報 は伝えている	
保護者 への説明 責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	3	2		・会えない場合、文 書化している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相 談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っ ている	4	1			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している		2	3		・今年度は新型コロナ感染症が広がり、うまくい かなかった
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	5			・苦情・その他意見 がすぐに確認で きるよう入り口に 「ご意見箱」を設 置し、毎時確認し ている ・ご意見等があつた 場合、ミーティ ングで職員同士が 共通理解を図り、 同じ対	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	5			・毎月発行している	
	35	個人情報に十分注意している	5				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	4	1			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等 地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	1	・招待は出来な かったが、地域の 公園や児童館を利 用し地域交流を	・今年度は新型コロナ感染症の広がりをうけ開 催できず ・地域住民を招待する行事を今後考える

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1		・見える場所に掲示している(事務所内)	
	39	非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		1		・少ないように感じる ・最低年2回は行っている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	1			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1		・すぐに確認できるよう掲示している(事務所内)	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5			・全体日誌の一覧の中にも記載している	・ヒヤリハットの範囲を具体的に決めたほうがよい